

高次脳機能障害者支援の手引き
通 所 事 業 所 編

通所事業所で活用できる
リハビリテーションプログラム

長崎県高次脳機能障害支援センター

目 次

	(ページ)
・はじめに	2
・推奨プログラム	3
プログラム1 メモリーノート	4
プログラム2 SST (社会生活技能訓練)	6
プログラム3 グループ・ミーティング	8
・参考資料	10
1. 当所の高次脳機能障害者通所訓練事業について	11
1) 概 要	11
2) 各 種 活 動	12
3) 評 価	14
4) その他の活動	14
5) プログラムの実際	15

I. はじめに

長崎県高次脳機能障害支援センターでは、平成20年7月より、在宅の高次脳機能障害者の方々を対象とした「高次脳機能障害者通所訓練事業」を開始しました。いくつかのプログラムを組み合わせせて試行し、その効果を評価した上で変更を加えるという手順を踏みながら、これまでに合計5クール（平成20～21年度は1クール24回を4クール、平成22年度は1クール48回を1クール）を終了しましたが、本書「高次脳機能障害者支援の手引き（通所事業編） 通所事業所で活用できるリハビリテーションプログラム」は、これまでの実践の中で、多くの障害福祉サービス事業所等において活用していただきたいと思われたプログラムを抽出し、簡単にまとめたものです。

高次脳機能障害の中でも、多くの人に共通して起こり、社会生活が阻害される要因となりやすいものとして、記憶障害や遂行機能障害、そして情緒・行動のコントロールの障害があります。障害者の方々にとっては、このような障害との付き合い方を身につけるとともに、障害を少しずつ受容しながらに、傷ついた自尊心を回復し、人生の主演としての復帰を果たしていただくことが重要となります。

いくつかの検討を繰り返した結果、障害とうまくつき合うための手段として、あるいは、自尊心や人生を回復するための手段として有効であり、かつ、多くの通所系障害福祉サービス事業所において実施しやすいと思われる支援プログラムとして、私たちは以下の3つの支援プログラムを推奨することとしました。

一つは「メモリーノート（作業手順表）」の活用、次が「SST（生活技能訓練）」、そして「グループ・ミーティング」です。

「メモリーノート（作業手順表）」は、日々のスケジュールや作業手順などを細かく記載していくもので、これらの活用は、低下した能力を補うための“代償機能の獲得”として極めて有用であることが分かりました。また日々の課題に対する対処技法の向上を目指す「SST（生活技能訓練）」は、対処技法の向上だけでなく自己の障害への理解を深めていくことにも有効でした。「グループ・ミーティング」では、振り返りや互いに意見を出し合うことで、プラス面やマイナス面の自己モニタリングが強化され、自身の症状や障害との向きあい方の気づきが促がされるとともに、仲間同士の結びつきや自尊心の回復にもつながりました。

今後、ご意見・ご批判を仰いで、さらなる実績を積み重ね、充実した内容にしていきたいと思えます。忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

平成23年3月

長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
長崎県高次脳機能障害支援センター
所長 大塚 俊弘

II. 推奨プログラム

概要

高次脳機能障害者は記憶障害等により、「したこと・聞いたこと・これからすること」などを覚えておくことが難しくなります。

メモリーノートは、覚えておきたいことや忘れてはいけないことをノートに書き、それを手がかりとして自らの生活や作業が管理できるようにするための代償手段の一つで、通所の必須プログラムです。

方法

使用するノートは、市販のメモ帳やスケジュール帳で良いですが、記入することに慣れるまでB5判サイズのバインダーノートで始めるのも1つの方法です。中味は、月刊スケジュールと1日の行動記録及び作業記録に分けます。

1. 月刊スケジュール

これは、『自分の未来の行動(予定)』を記入します。

1ヶ月が見渡せるように、左右見開きのページを設けます。

記入欄は大きく
シンプルに！

はじめに毎月決まっているものから記入していきます。通所日、受診日、外来リハビリ、ハローワークの就労相談日など

次いで、プライベートの予定(外出・当事者会出席など)を記入していきます。

予定が発生したら、その場で記入します。書いたメモの内容が正しいかどうか、その場で確かめます。間違っているときは書き直してもらいます。

月	火	水
1 外来リハビリ	2 通所日(配送係)	
7 通所日	8 外来リハビリ	9 通所日
14 通所日	15 外来リハビリ	16 通所日(配送係)
21 通所日	22 外来リハビリ	23 通所日
挨拶:「おはようございます」は、10時まで		

2011年3月			
木	金	土	日
3 外来リハビリ	4 通所日	5	6
10 外来リハビリ	11 通所日	12 14時 通所日 短時間の作業	13
17 外来リハビリ	18 通所日	19	20
24 外来リハビリ	25 通所日(録音)	26 14時にSBS が開始して 空	27
挨拶:「おはようございます」は、10時まで			

2. 一日の行動記録

時間単位で出来事を記入していきます。
過去の記録について、生活や作業で何があったのか、何をしたかを後から振り返る材料とします。

端的に書くよう具体的にアドバイスします。
細かく書きすぎるなど書くことだけが目的にならないように指導します。

家族やスタッフは、本人の判断と行動について、当事者と一緒に振り返りを行います。

*リフィルは1ヶ月ごとに差し替えます

今日の出来事、目にとまったニュースなどの記入を日課にしてもよいでしょう。

【4】

3 / 9 (水)

7:30	起床
8:00	朝食
8:30	出発
9:00	施設到着
	袋詰め作業
10:30	発送作業準備
	発送作業
	宛名ラベル貼り 指導があった
12:00	昼食
	パソコン
16:00	入力場所を間違えた
16:30	帰宅 テレビを見た
18:00	夕食 カレーライスを食べた
19:00	入浴
19:30	テレビを見た
	お笑いとお歌番組
21:30	就寝

備考

就職率が少し上がったニュースはうれしかった。

3. 作業記録

作業の手順や作業中に必ず注意しなければならない点などを記録します。

利用するページは見開きで1ページにします。

ノートに書く内容と場所を決め、スタッフがチェックしながら本人が自分で注意事項や手順を記載します。(下図参照)

- ・本人が思いついた言葉を自筆で書く方が、後から見た際に本人が想起しやすく、自分で書いた証拠にもなりフィードバックするときに活用できます。
- ・特に重要な内容や追加事項は、蛍光ペンでマークしたり付箋をつけて目立たせるようにします。

忘れたり迷ったりしたら、必ずメモリーノート

を見るように指導します。これをスタッフで統一していきます。

作業内容の変更は、すぐに変更箇所を本人へ伝え、その場で訂正していくよう指導します。

留意点

メモリーノートの記入時間を保障（確保）します。

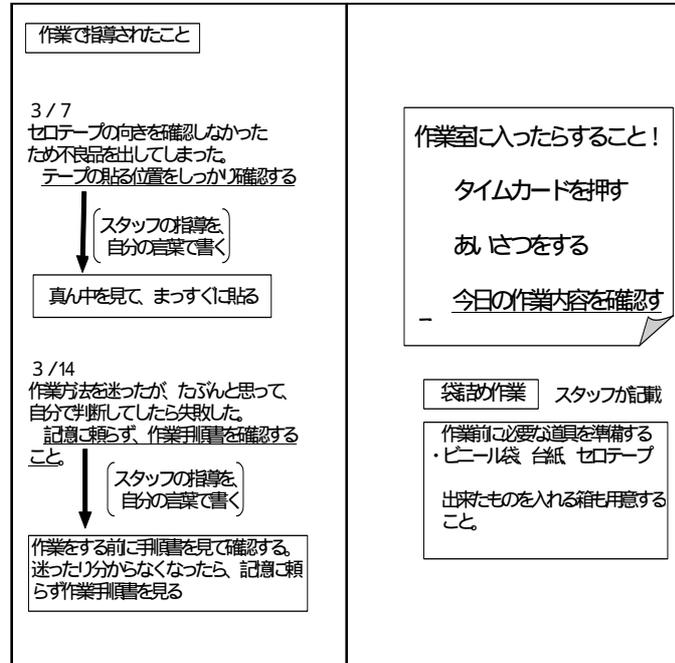
長い文章は理解しにくかったり、記憶できないことが多いため、簡単な言い回しにしたり、文章を分けて記入します。

記入後は、記入者が内容を理解できているかどうか復唱してもらうと同時にイメージできているかを確認します。

メモリーノート確認の時間を保障（確保）します。

多くの高次脳機能障害者は、記憶・注意・遂行機能・状況判断力などが低下しているうえに、障害の認識が困難な場合があり、記憶の代替としてメモリーノートを有効に活用ができない場合があります。メモリーノートは習慣化されて初めて有効な記憶の補助手段になり得ます。

よって、スタッフとご家族で連携し、根気強く、メモリーノートに書くこと・見ることを促していく必要があります。



プログラム 2

SST (Social Skills Training = 生活技能訓練)

概要

高次脳機能障害者の中には、情報処理が上手くいかずにパニックになって追い詰められ精神的に破綻し、問題行動を起こしたり、失敗が続いて抑うつ的になってしまう場合があります。これは、遂行機能という行動をコントロール（制御）したり、自分がやっている行動をモニター（監視）する働きに障害が生じて、自分で自分の行動を十分制御することが出来なくなるため、様々な問題行動を引き起こしてしまいます。これらに対するトレーニングとして、主に精神分野で実施されている「SST」という理論が、高次脳機能障害リハビリでも取り組まれていますので紹介します。

これは、社会で生活していくために必要な技能を身につけると同時に、技能の習得により、自信を回復していくという認知行動療法の理論に基づいたリハビリテーション技法の1つであります。訓練に当たっては、個人の希望に添った目標を立て、その目標達成のために必要なスキルを小さなステップに分解し学習を進めます。問題場面を設定(モデル)し、ロールプレイを行い、**本人の振り返りとポジティブフィードバック(正のフィードバック)**を与え、**モデルから『対人技能や問題解決技能』**を学び、これを実生活の中で実施していくというものです。

方法

メンバー：5～6名程度に対し、スタッフは2～3名

グループで円を作り、プログラムを実施します。

スタッフの役割；

リーダー：進行役

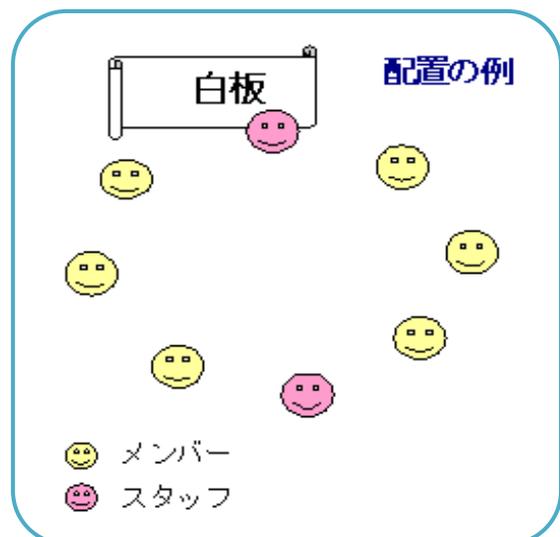
コリーダー：

- ・ロールプレイのモデリング（お手本となる行動）をしたり、白板上に注意点などのポイントを書いたり、正のフィードバックを積極的に行うなどリーダーの補助役です。

記録者

時間：

- ・1時間のセッションの場合、一人当たりの時間は10分前後です。



基本的な進め方：

- 1) ウォーミングアップ...緊張感をほぐす(体操、ゲーム etc)
- 2) 宿題の報告 ← 報告を聞いてほめる (正のフィードバックを与える)
- 3) 練習課題を決める ← 「何かできるようになりたいことありますか？」
- 4) 練習場面を設定する
- 5) 予行演習のロールプレイ
 ↪ 相手役を選び、言葉と行動をあらかじめ決めて予行演習を行う
- 6) 良かった点をほめる (正のフィードバック)
- 7) さらによくする点を考える
- 8) 必要ならばお手本を示す(モデリング: スタッフ同士で行う)
- 9) 新しいやり方でもう一度ロールプレイ
 ↪ 学習しやすいようにリーダーがそばに立って注意点を耳打ちする
- 10) 良くなった点をほめる (正のフィードバック) ← メンバーからあげてもらおう
- 11) 宿題の設定 ← 練習したことを実際の場面で実行してみるよう促す
- 12) 今日の感想 (振り返り)

練習課題の例：以下のような事項に関して具体的な場面を設定して行います。

- ・良いコミュニケーションの取り方 ・自分の立場や状況を説明する
- ・困った時の尋ね方 ・作業方法を聞く ・あやまる
- ・相手の立場や感情を理解し、自分の立場や感情を主張する etc

練習しやすい工夫：いくつかのポスターを貼り活動の留意点を促します

a. SSTの参加ルール

1. 見学はいつでも出来ます
2. いやな時はパスできます
3. 人のよいところをほめましょう
4. 良い練習ができるように他の人を助けましょう
5. 質問はいつでもどうぞ
6. トイレには、ちょっと断ってから

「練習の順序」を貼っておくと主体的な動きが、促されます！！

b. 良いコミュニケーション

1. 視線を合わせて
2. 手を使って
3. 相手のほうに身体を向けて話をする
4. はっきり聞こえるように
5. 明るい表情で

プログラム 3

グループ・ミーティング

概要

ミーティングを当事者同士を交えたグループで行うことにより、大きく二つの効果が期待されます。一つは、他の実施プログラムの効果を強化するということ、もう一つが、自助的な雰囲気仲間同士の結びつきを強化するとともに自尊心の回復を促すことです。

メモリーノートをもとに、昨日の出来事や困ったことを振り返り、互いに意見を出し合うこと（当事者間のフィードバック）で、プラス面やマイナス面の自己モニタリングを強化し、自身の症状や障害との向きあい方の気づきを促していきます。

また、当事者同士が支え合い互いに役立つという体験を繰り返すことで、自尊心の回復につながります。場合によっては、自分たちの自助組織を作ろうという機運が生まれることもあります。

方法

- ・メンバー：通所者4～5名に対し、スタッフ2～3名
- ・互いの言動が分かりやすいように、机を囲むように座って実施します。
- ・スタッフの役割：スタッフは個々のメンバーの発言や通所者同士の交流を促す。ファシリテーターです。全員が発言できるように促します。
- ・実施は、「開始時・活動後・反省会」で、各々10分前後で行います。

開始ミーティング：昨日の出来事及び一日の流れの確認を行います。内容は、以下のとおりです。

（内容）：a 昨日の出来事の発表

スタッフ：記憶の想起を促し過去の時間の整理をサポートします。
ポジティブフィードバック（正のフィードバック）

b 『意識する目標』の発表

自分の目標を再確認し、気づきへの意識を高めます。

例：「携帯電話を使用する場合は場所をわかまえる」

「自分の見通し・行動予定を言葉にして相手に伝える」

c 今日の予定の確認

スケジュールを確認することで、自発的な行動が出来るよう促します。

各活動後のミーティング：課題を通して得られた気づきを確認し、次の活動へつなげていきます。内容は以下のとおりです。

(内容)：a 活動前に、前回の気づきを確認(メモリーノート)します。

メモリーノート活用の意識付けを促します。

- b 活動後、各々スタッフと一緒に今日の活動の留意点・反省点の確認とノートへの記載を行います。
- c 記載内容について口頭で一人ずつ発表します。これに対し他者から意見(フィードバック)を受けます。

自己モニタリングの強化および障害認識を促します。

- d 意見等を確認事項のメモリーノートへ追記します。

反省会：自己評価およびフィードバックにより次のステップへとつなげていきます。内容は以下のとおりです。

(内容)：a 自分の意識する目標や当日実施した活動を振り返り、自己評価を発言します

自分の状態像の振り返りを促し、次の“気づき”へつなげていきます。

- b 他の通所者への発言に対し通所者間で意見交換(評価)します。
他者の評価を受けることで、自己モニタリングが高まります。
- c 職員によるフィードバックを実施します。

課題解決へのヒントの提示や、正のフィードバックにより、課題解決意欲や自信が向上を促します。

- d 次回の予定をメモリーノートに記入します。
次回の活動のイメージ化をはかります。

参 考

活動の振り返り

- ・ステップ : 自分で振り返りを行い、発表することで、問題への気づきを促すことができます。
- ・ステップ : それに対し他者から評価を受けることで、それがモニターになり、結果、自身の現実検討及び障害認識が促されます。
- ・ステップ : 人の振り見て、わが振り直せ! が期待でき、
これが、次の活動へつながります。

自己モニタリングとは：自己の現在の状況を観察・記録あるいは管理・評価するという意味。行動療法や認知行動療法の技法の一つで、自分自身の問題となっている行動や修正したい行動を、自分で観察・記録することで自ら評価し行動変容を図ることです。

III . 參考資料 :

1. 当所の高次脳機能障害者通所訓練事業について

1) 概要

- ・ 援助の目的；主にグループ活動を通じて、障害の認識を深め、判断力や問題解決能力を高めるための訓練や代償手段の獲得を行っています。
そして、障害を持ちながらも社会生活をスムーズに送ることが出来るようになることを目的に実施しています。
- ・ スタッフ；精神科医師、作業療法士、言語聴覚士、保健師、理学療法士
ソーシャルワーカー
- ・ 実施頻度；毎週2回（火曜日と木曜日の午前）年間48回。

・ 基本的な1日のプログラムの流れ；

9:00 ~ 9:10	バイタルチェック
9:10 ~ 9:15	今日の予定の確認
9:15 ~ 9:30	昨日の出来事の発表
9:30 ~ 10:00	スピーチエクササイズ
10:00 ~ 10:10	休憩
10:10 ~ 11:00	各種活動（1）
11:00 ~ 11:05	休憩 ミーティング
11:05 ~ 11:25	各種活動（2）
11:25 ~ 11:30	各々の今日の“気づき”のまとめ
11:30 ~ 11:40	反省会（自己評価・フィードバック）
11:40 ~ 11:50	次回の予定の確認
11:50 ~ 12:00	利用料金の支払い・終了

基本的な考え方

・ 高次脳機能障害の症状は、外見からは分かりにくくまた症状は多彩で様々なため、周囲のみならず、当事者自身も気づきにくく、社会生活を送る上で様々なトラブルが、生まれやすいです。中でも、記憶や注意・遂行機能障害により、自分の判断と行動が良かったのか、悪かったのかがモニターできず、次も同様の誤りをおかしてしまうことがあります。よって、支援の視点として、

過去 現在 未来をつなぐ視点での支援

気づき体験・成功体験を導入した支援

という2つの視点で行っております。

2) 各種活動

活動を行うにあたって：

- ・活動（課題）を行う前には必ず“振り返り”を行います。今回の内容が、前回経験した内容であれば、活動内容や留意点、反省点を確認することで、次の活動へつながります。

(1)【簡単な計算ドリル】(覚醒及び易疲労性の改善)

(2)【注意集中の訓練】

暗算課題	隣合う1桁の数字の足算を実施する課題。
電卓計算課題	10行の計算問題を、3回連続同じ解答ができるまで電卓にて計算する課題。
文字列比較課題	左右の文字列を比較し異なる文字を探し出す課題。
書写課題	文字・数字を正確に書写する課題。
検索課題	電話帳を利用し、目的の電話番号・住所・掲載ページ番号を検索する課題。

(3)【記憶訓練】

指差し課題	シートに示している数字・漢字をランダムに指差し指差した数字や文字を順番どおりに記憶・記述する課題。
書取り課題	読み上げられる文章と全く同じ内容を書取る課題。
伝言課題	文章を記憶し、次の人に伝える課題。

(4)【遂行機能訓練】

推測課題	カードに示された言葉の特徴を説明し、説明のみを頼りにカードに示された言葉を推測し記述する課題
情報伝達・図作成課題	図案を説明する人・図案を描く人に分かれ説明のみを頼りに図案を作成する課題。
聴覚性指示命令課題	口頭指示を記述し、その後、指示通りの物品操作および動作を再現する課題。
視覚性指示命令課題	物品操作および動作を観察し、その後、観察通りの物品操作および動作を再現する課題。
物語作成課題	文字部分を隠した絵本に、思い通りのストーリーを記入し物語を作成する課題。

文章並び替え課題	順不同に並べ替えた、数字・五十音・アルファベットを数字順・五十音順・アルファベット順に並び替える課題。 また順不同に分解した1つの文章を、並び替えて意味が通る文章に並び替える課題。
パソコン課題	指示書に沿った文章の校正課題。

(5)【社会的行動障害】

リアルフィードバック	場に不適切な発言・行為に対する、即時的フィードバックの実施。
言動チェック	通所時の言動をビデオ撮影し、通所者と一緒にビデオを確認しながら言動チェックおよびフィードバックの実施。
個別面接	評価内容および言動観察のフィードバックの実施。

(6)【スピーチエクササイズ】

・口腔機能を高め、ことばの明瞭度を上げること、また人前で音読することで、相手に伝わりやすい話し方を学び、結果、話すことへの自信につながります。また、音読の内容を高次脳機能障害に関するものを使用することで、障害認識が高まり、受容が深まる効果も期待できます。

口の体操（口腔機能を高め、構音明瞭度の向上）

【方法】

- ・1グループが5～8人。うちスタッフは1～2人。
- ・テーブルに輪になって座る。（リーダーは前に座る）
- ・全身～口腔のリラクゼーション（口の体操）を行います。腹式呼吸の深呼吸から始まり、肩や首のストレッチ、その後口や舌など発声時に使用する運動器官を動かして、発声練習を行います。

早口ことば（構音明瞭度の向上、レクリエーション的要素）

【方法】

- ・同じ発音、または似ている発音が何度も続くと、スピードを上げて言うのは難しくなります。あえてそれを早口で言いながら、しかも正確に発音するというのを楽しみます。（「生麦・生米・生卵」「東京特許許可局」など）

文章の音読

【方法】

- ・物語や新聞などの記事の音読を行います。最初は全員で音読し、その後は一人ずつ読む。
- ・どの点に注意して読むと相手に伝わりやすいか等、記事の内容に応じて検討し、毎回、読む前に意識することを話してから音読する。
- ・音読後は、意識することに注意しながら読めたか等、自己評価をしてもらおう。また他者からも評価をもらい、自己モニタリングの強化を図っていきます。

3) 評価

(1) 目的：

- ・ 評価は、対象者の持つ高次脳機能障害の症状に対し「障害されている部分」と「健康的な部分」を知り、効果的で効率的な支援を組み立てていくために実施します。

(2) 実施の時期：通所開始前、通所中期、および通所終了時。

(3) 評価項目：

背景情報（家族・友人、医療機関、施設、その他）

- ・ 対象者の困っていることについて、受傷（発症）前との比較
- ・ 高次脳機能障害の診断をいつ・どこで・受けたか？
- ・ 経済生活や受けている福祉サービス等について

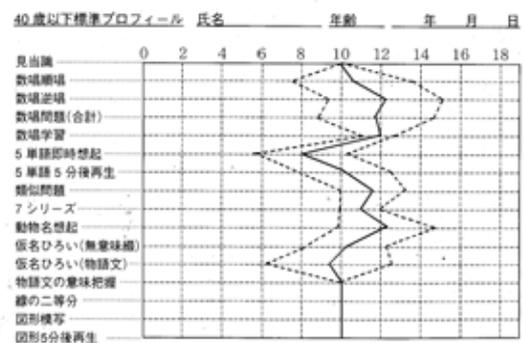
障害の程度

- ・ WAIS- ：知能指数の測定
- ・ WCST（ウイコソソカードソートテスト）：前頭葉機能の測定
- ・ WMS-R（ウェクスラ-記憶検査）：一般的（視覚・聴覚）記憶と注意・集中力の測定
- ・ TMTA・B：視覚的探索と注意の転換を測定

() 高次脳機能評価マニュアル（浜松式）

上記の検査が困難な場合に使用する簡易な評価方法。

11項目（14検査）で構成されており、20分ほどで終了し、左記のように視覚的なプロフィールにまとめることができます。



QOL

・ WHO-QOL：

生活の質に関する質問に対し、本人が感じていることを回答するもので、主観的な QOL を測定する唯一の評価票です。当所では、身体・心理・社会的関係・環境という4領域の24項目と全体を問う2項目を加えた26項目で構成される「WHO-QOL-26」を使用しています。対象者の主観的な生活の質を知ることができ、その後の支援に活かしています。

(4) 本人および家族へのフィードバック：

評価は、単に症状や障害を見出すことだけでなく、それらが、対象者の家庭や職場などにおいて、どのような場面で困り、どのような対応や工夫をすれば困難を解決または軽減できそうか、といった現状を整理し理解し、対象者及び家族に説明することが大切です。

4) その他の活動

- (1) フォローアップ： 通所修了者の生活及び就労状況等について家庭訪問・電話連絡等を行ない適宜支援を行ないます（原則1年間）
- (2) 地域支援会議の実施： 支援ニーズによって、医療機関や就労支援機関、福祉サービス事業所等の支援関係機関と支援方針や支援経過について、適宜、支援会議を行ないます。

5) プログラムの実際（平成22年度・1クール48回）

	内 容	対応スタッフ					
		Dr	OT	PHN	ST	PT	SW
1	オリエンテーション / 開所式 / 自己紹介						
2	評価（浜松式高次脳スケール、WCST、QOL）						
3	評価（遂行機能、言語、一般職業適性検査）						
4	評価（遂行、言語、一般職業適正検査）						
5	評価（体力測定、社会性調査票）/ グループワーク						
6	個人目標決定/ グループワーク						
7	各種課題/ 面談/ グループワーク						
8	各種課題/ 面談/ グループワーク						
9	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ 個別面談						
10	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ 個別面談						
11	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ SST						
12	スピーチエクササイズ/ 各種活動						
13	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ SST						
14	スピーチエクササイズ/ 各種活動						
15	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ SST						
16	スピーチエクササイズ/ 各種活動						
17	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ SST						
18	スピーチエクササイズ/ 各種活動						
19	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ SST						
20	評価						
21	評価						
22	評価、						
23	個人面談/ ショートケアの振り返り						
24	個人面談/ ショートケアの振り返り						
25	個人目標決定/ グループワーク						
26	各種課題/ 面談/ グループワーク						
27	各種課題/ 面談/ グループワーク						
28	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ 個別面談						
29	スピーチエクササイズ/ 各種活動/ 個別面談						

	内 容	対応スタッフ					
		Dr	OT	PHN	ST	PT	SW
30	スピーチエクササイズ / 各種活動						
31	スピーチエクササイズ / 各種活動						
32	スピーチエクササイズ / 各種活動						
33	スピーチエクササイズ / 各種活動						
34	スピーチエクササイズ / 各種活動						
35	スピーチエクササイズ / 各種活動						
36	スピーチエクササイズ / 各種活動 / S S T						
37	スピーチエクササイズ / 各種活動						
38	スピーチエクササイズ / 各種活動 / S S T						
39	スピーチエクササイズ / 各種活動						
40	スピーチエクササイズ / 各種活動 / S S T						
41	スピーチエクササイズ / 各種活動						
42	スピーチエクササイズ / 各種活動 / S S T						
43	スピーチエクササイズ / 各種活動						
44	スピーチエクササイズ / 各種活動 / S S T						
45	評価						
46	評価、						
47	個人面談 / ショートケアの振り返り						
48	個人面談 / ショートケアの振り返り 閉所式						

高次脳機能障害者支援の手引き 通所事業所編

発 行 平成23年3月

作 成 長崎県高次脳機能障害支援センター

(長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター)

〒852-8114 長崎市橋口町10-22

電 話 : 095-844-5515 FAX : 095-846-8920

ホームページ : http://www.pref.nagasaki.jp/na_shien/

E-Mail : s04760@pref.nagasaki.lg.jp